



NEWS LETTER かながわ

2008年8月30日 第1号

発行：神奈川支部

連絡先 e-mail: jacdp-kanagawa@hotmail.co.jp

巻頭言

神奈川副支部長 秦野悦子

昨今の心理職の募集には、「資格を持つこと」と「経験があること」が条件とされますので、大学院生の学びが、資格取得とフィールド経験に心が傾いてしまいがちです。資格至上主義の現代社会で、資格をもつことが臨床実践家としての最低必要条件を認定するものであれば、むしろ重要なことは、専門性を資格で保証する時代のキャリアの積み方がますます問われるということです。神奈川支部が関東支部から分割独立して3年目になります。すでに今年度は資格を更新した方々もおられます。支部会員の皆様は、それぞれの職場でどのように臨床発達心理士資格に関わるキャリアを積んでこられていらっしゃいますか。

訓練された技術や技法を生かす技量の大半が、専門職として仕事を得了職場で蓄積していくものであるといえます。実務に密着したノウハウ、ワークフロー、特殊性の高い業務知識、職務遂行のコツや要領などは職務の現場にしか存在せず、また文書化・マニュアル化されていない暗黙知であることが多いからです。その点で、新人が目標となる先輩から得る徒弟制度的学びは、かなり有効性が高いといえます。しかし、実際には単に新人や若手を現場に放りこんで、成り行きで仕事の要領やコツを身につけさせる中で、新人が必死になって学ぶことによりかろうじて成り立っている現状ではないでしょうか。

On-the-Job Training (OJT) とは、職務遂行を通して、①組織メンバーとして成長するための布石、②仕事に必要な知識や技能、取り組み姿勢、③仕事をするものの価値や達成感などを、どう効果的にかつ有効に身につけさせるかということ、意識的に取り組む育成・指導の活動であり、実際の仕事を通じて、必要な技術、能力、知識、あるいは態度や価値観などを身に付けさせる教育訓練のことです。資格を取得してキャリアを積んでいきたいと高い志を持った人たちが、これからますます増えていく昨今、専門キャリアを積むことは個人の課題ではなく、支部としても取り組んでいく大きな課題だと感じています。



神奈川県支部研修会報告

テーマ：虐待をめぐる国の動向と家族支援

日時：2008年5月31日午後1:30～4:30

場所：横浜市青少年育成センター

講師：『子ども虐待をめぐる国の動向』 庄司 順一氏（青山学院大学）

『子ども虐待の理解と対応－横浜市における支援の現状－』

菅原 正興氏（横浜市中心児童相談所支援係長）

庄司氏は里親としてのご自身の体験を絡めつつ、わが国における被虐待児の支援の課題について話された。施策において乳児院など施設中心で、家庭的保育の必要性が反映されていなかったことに里親制度が普及しなかった原因があるが、2008年5月に改正された児童福祉法により、ようやく家庭的保育の制度化が実現した。これにより、年齢の高い子どもはグループホームを活用することができるようになった。心理による支援としては、子どもは早期からアタッチメント対象との分離や喪失を繰り返し体験していることへのケアやそこからの復元力（レジリエンス）に着目することが大切である。また、家族再統合とは親子が一緒に過ごすことではなく、親子であることの自覚を双方が持つことが大切であるということであった。アセスメントと治療的なかわりについても紹介していただき、大変参考になった。

菅原氏からは虐待対応の中心機関である、児童相談所における対応の実態と課題についてお話いただいた。児相における虐待対応チームは3名（係長、ケースワーカー、非常勤の職員）しかおらず、輪番制で2名が24時間体制で待機するが、三交替の制度はなく、翌日は通常通り出勤する、ということに驚いた。児相に委ねられた法的措置としての、一時保護、立ち入り調査、家裁申し立ての実際については、事例を通して学ぶことができた。菅原氏が独自にまとめた統計資料では、障害のある子どもは、一般に比べて虐待されるリスクが高いことが示唆された。こうした観点から虐待を捉えることは重要だが、児相全体のそうした意識は低く、公的な統計資料自体が存在しないため、今回は大変貴重な資料を提示していただいたことになる。質疑応答では、児相と学校との連携のあり方について討議が深められた。児相における虐待対応の実際とともに、学校の教員としての対応のあり方をふりかえる機会となった。



神奈川県支部研修会についてのアンケート結果

19 通回収させて頂きました。

1. 今回の研修会の内容について

- 1) 「自分の知識の広がりにつながるものでしたか。」(5 択)
19 人中、「とてもそう思う」が 13 人、「そう思う」が 6 人でした。
- 2) 「臨床現場に役立つものでしたか。」(5 択)
19 人中、「とてもそう思う」が 11 人、「そう思う」が 8 人でした。
- 3) 内容へのご意見をお聞かせ下さい。(自由記述)
 - ・とても勉強になった。参考になった。(6)
 - ・菅原先生の再統合プログラムについて詳しくおききたい。(1)
 - ・講義が大変わかりやすかった。(2)
 - ・虐待関係の全体情報と理論そして臨床面でのお話と、理解しやすい講義内容だった(1)
 - ・児相の方の話が具体的でわかりやすかった。(1)
 - ・子どもの養育の問題と親支援の視点の両面から虐待を考えることができた。(1)

2. 今後の神奈川県支部で希望する研修会・研究会について(自由記述)

- ・育児支援、虐待予防のための親支援プログラム Nobody's Perfect の研修会。(1)
- ・子支援、親支援両面についてうめだあけぼの園の竹谷先生の講義(1)
- ・特別支援教育に関する人権問題等について、弁護士など法律関係者の講義(1)
- ・軽度発達障がい児の思春期の課題とケアについて(1)
- ・障害のある子どもの保護者への支援(1)
- ・親の障害受容のプロセスについて(1)
- ・様々な理由で養育できない親の援助方法(1)
- ・虐待と学校の対応(1)
- ・自閉症の子どもの支援について(1)
- ・発達障害に関する最近の研究動向(1)
- ・WISC-Ⅲ、K-ABC 等の検査について(1)
- ・現場の話をききたい(1)

3. その他研修会について気づいた点(自由記述)

- ・会員の方と気軽に話をする時間が欲しい(1)